

下野新聞
認知症カフェプロジェクト
過去の特集はこちら！



Vol.31 オンラインゲームを活用した交流

高齢者が認知機能を維持するためには適度な刺激が必要と言われています。昨年11月22日、オンラインゲームを活用した交流会が宇都宮市内の二つの高齢者施設を結んで開かれ、施設利用者がeスポーツ対戦を楽しみました。

企画制作/下野新聞社ビジネス局

下野新聞

認知症カフェ

プロジェクト2024



ケアハウス公孫樹×ケアライフゆいの杜

ワクワクドキドキ eスポーツ体験



真剣な表情でリズムに合わせて太鼓をたたく参加者＝ケアハウス公孫樹



声援を受けeスポーツを楽しむ参加者＝ケアライフゆいの杜



カメラの前であいさつをする阿部さん＝ケアハウス公孫樹



ポンポンなどを持ちみんなで大喧嘩した＝ケアライフゆいの杜



参加者たちの健康をたてるNTT東日本栃木支店 重田企画総務部長＝ケアライフゆいの杜

コンピュータゲームなどの腕を競う「eスポーツ」は、パソコンのほかスマートフォン、家庭用ゲーム機を使うものがあり、若年層を中心に人気上昇中です。昨秋初めて、60歳以上がスポーツや文化で交流する「ねりんビック」の正式種目に採用され、その手軽さが高齢者の関心を集めています。

この日は、NTT東日本栃木支店がパソコンや通信機器を用意し、高齢者入居施設ケアライフゆいの杜、宇都宮市と同ケアハウス公孫樹(同)を結んで、それぞれの利用者がeスポーツで対戦しました。

オンラインで対戦 笑顔はじける

「ゆいの杜」利用者の石川枝美子さん(88)は「昔のお祭りを思い出しました。リズムに合わせることでできて、楽しかった」と満足そうでした。「ゆいの杜」管理者の片岡美奈さんは「難しいゲームで戸惑ってしまうかと心配しましたが、楽しんでいまし

ました。普段と違うレクリエーションで良い刺激になりました」と目を細めました。「公孫樹」施設長の阿部裕一さんも「とても盛り上がり、利用者の新たな面を知ることができました」と話しました。

NTT東日本栃木支店の重田文二企画総務部長は「社会貢献の一環で、高齢者施設を結んだeスポーツ体験を行いました。高齢者の方々に喜んでいただけて良かったです。eスポーツはさまざまな種目があるので誰でも楽しめるスポーツとしてPRと普及を図ってまいります」と話しました。



お年寄りたちを優しく見守った片岡さん＝ケアライフゆいの杜



施設職員も一緒に笑顔で参加者を応援した＝ケアハウス公孫樹



三つの施設を映し出した大型モニター＝ケアライフゆいの杜

ミライってどこからくるんだろう？

新しいミライは、あなたの街からはじまります。様々な地域の魅力と地元の方々の思いに、私たちの技術やノウハウをかけ合わせ、ソーシャルイノベーションを実現。地域に新しい価値を創ります。



NTT東日本グループ

